的場正美先生 シニアフェロー就任記念 シンポジウムを８月２０日(日)　１３：３０～１５：３０に開催しました。

会　　場　　ウインクあいち（愛知県産業労働センター）　小会議室
テ　ー　マ　　世界から見た日本の教育
司会・報告　　学び合う学び研究所シニアフェロー　的場 正美 先生
対　談　者　　名古屋大学大学院　　講　師　　草薙佳奈子先生
コメンテーター 名古屋大学教授　Sarkar Arani Mohammad Reza　先生

今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、他者の鏡で自分を見つめることです。 内容的には、今まであまり考えたことのない内容で、大変勉強になりました。 海外に目を向けることで、自分の国を見つめ直すことの大切さを教えていただきました。 授業研究への考え方、取り組み方をあらためて考え直してみたいと思いました。とても有意義な時間をありがとうございました。
今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、授業研究は平和につながるということです。 インドネシアやドイツの授業研究は学校評価につながっている。ベストティーチャーベストスクールをめざすという手段になってしまっている。競争の場ではなく楽しい=平和につながるものであるとよいというお話に大変心ひかれた。 先日アメリカの授研究の話をきいた。授業中にフードを頭からかぶって伏せている生徒をどう見るか、日本の教師なら彼の心の内の苦しさをよむ、自分をかくしている、心をひらいていないと。アメリカの教師にはそういう視点は全くなく単に怠けているとしか見ない。日本の教師の見方をアメリカの教師は驚き、そういう見方をしていくのか、と学んだそうだ。この話に似たようなことは日本でも起きている。授業研究は子どもたちが公正に学ぶ場や機会が保障されているかを研究する。つまりは子どもの幸せのために行うものだと考える。 私個人は授業をみせて頂くと、自分が優しくなれる気がする。次の日から子どもへのまなざしが変わる。だから他の人の授業を見せてもらう。同じ(同じような)子ども違う姿。同じ子どもを他の先生はどう見るか、子どもの学びをどう見るか、子どもへのまなざしを見直していきたい、反省的実践家でありたい。ということを改めて実感できた会だった。 以外、ドイツの留学生さんからお話を聞いて私が考えたこと この先 AI が仕事をしてくれて人間の職がなくなっていくと言われている。だとしたら人間が働く時間を少なくすればよいのではないか 子どもが学校に行く時間も短くすればよい。 その「できた時間」をどう使うか。自分で考え工夫できる人に。大人も子どももその力がいるのでは?要するに自己調整でき自ら様々な事から学べる力をつげる必要があるのかな?
今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、わからなさから学ぶことです。 ありがとうございました。授業研究に対する歴史的な視座を学び、これまで問えていた何かがとれた感じがしてすっきりしました。 また、最近、お休中の「授業で育つ教師の会」のような話題が多く、世界の教室における授業研究の情報に触れ、視野が広がったように思います。 アラニ先生がお話された実践、行政、研究の３視点を久しぶりにお聴きし、この点でも何か

がすっきりしました。 　会場でもお伝えしましたが、愛知文教大学の学生がしっかり育っていて、さらに学びたいと思いました。これからもどうぞよろしくお願いします。
今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、授業研究の位置づけを見直すこと、またそれには教員の働き方(時間の余裕)など様々なことが関わっているということです。 　授業研究を突き詰めていくと、最後には平和に繋がるという話が印象的だった。他者との関わりから自分を振り返ることで、学びが得られるということ、本当にその通りだと思う。 　グループ内で授業研究について交流していた際に、従来のようなまるで犠牲かのような 1 人に責任がのしかかるようなやり方ではネガティブな意味しかもたないままなので、1 年計画のなかで全員が意見を出し合って取り組むなどの改善が必要だと話し合った。
今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、経験の振り返りから学ぶことです。 　今日のセミナーで印象に残ったことが 2 つあります。 　1 つ目は、授業研究で改善点の方が目立つのでマイナスなイメージがあるという話です。改善点をダメ出しとして捉えるのではなく、学びとして捉えることや自信に繋げることが大切というのを聞いて、改善点はよりよい学びへの伸び代なんだと思いました。そう考えると、授業研究はマイナスなイメージを持つ方が多いがとても前向きで必要なことだなと感じました。 　2 つ目は、授業研究は集まるだけじゃないということです。私も、授業研究は授業を見た後、集まって会議のように話し合うものというイメージがありました。しかし、今日の話の中で、職員室で授業を撮った映像を流したり、生徒が発表したりというのを聞いて、集まらない、そういう方法があるなと自分の持っていたイメージを覆され、驚きました。 　同じチームの方と何を経験してきたか、何を大切にしているか、など多くのことを話すことができました。また、最後の話の中にあった経験の振り返りから学ぶというのが新しいなと感じました。経験を振り返り、見つめ直し学ぶ、授業研究に非常に通じていると感じ、とても納得しました。このセミナーで、自分の中で考え方や見方が変わったことが多くあり、とても実りある充実したものになりました。とても多くのことを得ることができました。
今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、Lesson Study　の意義です。 　的場先生が日本の教育方法の分野で取り組んでこられた歴史を知ることを通して、私自身も、なぜこの分野に心を惹かれるのかを考える 2 時間でした。「後輩に授業研究の何を伝えたいのか？」と問われたとき、授業を通して子どもを知ることや仲間（教師）とつながることの大切さを、改めてかみしめました。すでに現役を退きましたが、様々な機会を通して、後輩たちに授業研究の意義を伝え続けたいと思いました。 　草彅先生のインドネシアにおける協同的な学びの再文脈化は、何度聞いても考えさせられます。再文脈化は、日本の中でも起こっていますし、学校ごとでも起こりえる現象です。型ではなく、本質を受け継ぐことの重みを再認識しました。 　アラニ先生は、いつも授業の中で、「教師に責任を持たせる」ことを強調されます。自分の意志で教育の一端を請け負っていくことの責任の重さは、裏を返せば「学ぶことを楽しむ」ことの原点でもあります。また、「他者の鏡で自らを見る」「他国の LS を見ることで、日本を見る」という言葉は、研究者としての大切なレンズを教えていただいたような気がしました。

こういったお話を、研究者だけでなく、現場の教師や学生を交えて共有できることに本セミナーの価値を感じます。企画していただいた皆様、本当にありがとうございました。
今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、技術と技能の違いです。 授業研究は重要で、授業の技術は経験と理論に基づいて、獲得可能な形で向上し継承されていかねばならないが、そこから更に教員個々の技能として身につくところまで到達しないと、日々、数々の授業をこなし、生徒の予測不能な反応に対応していくことは難しいと思う。そうすると、結局教師本人の気の持ちようにまでおよぶことになると改めて思った。
今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、グルーバルな視点です。 授業研究や授業分析が、名古屋大学においてこれまで営々と積み重ねられてきたことを改めて学ぶことができました。また、インドネシアやモンゴル等の授業研究を学ぶことで、翻って自分を取り巻く現状を見直すきっかけともなりました。 宮崎小学校１校を何十年にも渡り、共同研究し続けていることをお聞きしたいへん驚きました。単に学校とのつながりだけでなく保護者や地域との深いつながりがなくてはできるものではないと思います。地道な努力の大切さを学びました。 授業研究を深めると学級経営や学校の目標等、何を目指すのかそれぞれの思いやねらいが色濃く反映されます。そういう個性も大切にしながら、授業の在り方を研究するのであろうと思いますが、客観性を保って分析するのは、結構骨の折れることではないかと思いました。
今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、「授業研究を競争の道具にしない」です。 日本の授業研究の広がりや、インドネシアでのレッスンスタディの再分脈化、研究者という立場での授業研究への関わりなど、様々な視点からお話を伺うことができ、大変勉強になりました。草彅先生のお話にありました、善いと言われていることであっても押し付けになってはいけないという点に深く共感しました。授業研究の再分脈化という言葉からは、授業研究がその土地に根を張り、地域の歴史や特色や文化を栄養として取り入れて、徐々に太く育っていく様をイメージします。どう根を広げ得るのかというところに、アラニ先生がおっしゃっていたteacher agency が関わってくるのではと考えました。また、的場先生がおっしゃっていた、授業研究で競走予備軍を育ててはいけないというお話がとても心に響きました。教育が平和の基礎を作るという大切な使命を担っているということを、再認識しました。授業研究によって目の前の子どもたちの学びを見取るということの意味を、改めて考えることができました。貴重な学びの場に参加させていただき、誠にありがとうございました。
今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、授業研究が授業者の評価にならず、参加者全員の学びの場になるためにはどうしたらいいのか、考えさせられました。 普段の授業研究でも、どうしても教師の動きや発問などに意識が向いてしまうが、子供の何気ない言葉やつぶやきなどを拾うことによってそこから学ぶ事が大切だと改めて感じました。大変勉強になりました。ありがとうございました。
今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、「楽しい授業」「ああ、今日は行って良かったなと思える授業」について学びました。 「楽しい授業」「ああ、今日は行って良かったなと思える授業」というお言葉が特に印象に残っています。子ども一人一人、背景や願いが異なる中でどのように実現できるのか考えていき

たいと思います。
いろいろ工夫された会であったと思います。参加意識が高まるようにされていました。 授業研究が日本で根付いていたものが、どのように海外の授業研究とかかわれるか、そこに興味がありますが、これからいろいろ情報を得たいと思います。
英語で書きます。すみません。 Thank you for todays event, which made me think a lot about what teachers want their students to achieve. The perspectives of Matoba-Sensei and Arani-Sensei also really helped me to see the different perspectives (on the input provided by Kusanagi-Sensei). I also appreciated the little discussions and time to exchange in the small groups during the presentation. All in all, it was a great atmosphere and I am sure I learned a lot today! 今日は、先生が生徒たちに何を達成してほしいかについて、とても考えさせられるイベントをありがとうございました。的場先生とアラニ先生の視点も、(草薙先生からのインプットに対する）さまざまな視点を知るのにとても役立ちました。ちょっとしたことにも感謝しました プレゼンテーション中に小グループでディスカッションや交流の時間を設けます。全体として、素晴らしい雰囲気でした。今日はたくさんのことを学べたと確信しています。 Thank you ありがとうございました。
教育現場は相変わらず疲弊し続けている。私達教師は主体的対話的で深い学びのある授業を行うことが本業であり、授業研究は欠かすことができないものである。しかしながら、強制的、ノルマ的に授業研究が課せられ、俎板の上の鯉状態に苦しんでいる先生は多い。そんな中で授業研究について考え直す機会や的場先生の世界的視野での知見にふれることができ、大変勉強になった。 授業研究の必要性について自分の考えを再確認することができたので、職場はもちろん様々機会で発信していきたい。 ありがとうございました。
本日、このような会が開催されたこと、そのものをうれしく思います。 日本の授業研究に理論はあると考えます。その一方でと“〇〇理論”となると、むしろあやしく感じる面があります。このあたり、さらに考えていこうと思えたのが、本日の成果の一つでした。
授業研究について考えさせられる講演になった。的場先生の考えの中に、授業研究が競争でなく、平和に寄与するものであるべきという言葉が印象的だった。 やはり子供たちにとって、何を身に付けさせるか、明確になる視点だと改めて感じさせられた。
私たち学生は、今後経験を通して学んでいく側として、より良い授業研究を行うための意見を多く頂けたよい機会でした。実際に経験し、見て学んできたことと、無知の学生が想定する風景や子供たちの動きのギャップがある中で教師目線の教育と子供主体の教育のかね合いを楽しく、やって良かったと思える授業研究が重要で、現代の若者へ教育研究の自信に繋がる[助言を頂けたことが良かったと思います。
海外でも日本でも授業研究が実行していますが、日本では主体的な研究の場を重視し、教師の主体性を強調します。子どもたちには授業中学び合いの姿を求めるのと同様に、教師は授業

研究での学び合いの姿を追求することが当り前だと思います。ですので、いろいろ教授法や学習法を授業に活用するように、授業研究でももっと自由的かつ楽しい雰囲気を作り、どうのように教師の主体性を引き出せるのを考えなければなりません。 若手教師にとって、授業研究は難しいと思う、最初はすそれに表するではなく、とりあえず参加することが大切です。教師は授業研究するとき、動機をつけないと、研究の成果は教師自分にとって薄いものになるかもしれません。これは中国での授業研究では強調されないものですので、とても印象を受けました。
・授業研究と一言で言っても、その方法や形は多様であり、決まりはない研究だから、目的を明確にして、先生たちがお得感を感じられる授業研究を行いたい。 ・働き方改革が言われているが、教師はやはり授業で勝負。これに時間と労力を使えるよう、改革していきたい。 ・しかし、教師が「授業で勝負」というモチベーションをもつことが重要。教師のやる気や意地に任せず、教師の責任とすべきだと、アラン生の話から実感しました。
今回始めて学び合う学び研究所に参加して学生ではあまり聞く機会の少ない「現場の声を聞くことができました。 また機会があったらぜひ参加したいです。
レッスンスタディが各国で受容され再文脈化されているという実態が非常に興味深かった。 各国の文化的側面に強く規定されるとのことで、例えばインドネシアは校長のトップダウンが強いとのことだが、どのようなアジェンダを掲げて、教師のモチベーション(もしくは義務感)を創出しているのかが気になった。プラクティカルなレッスンスタディがアウトカムやアウトプットを求めたからになると、新自由主的な競争のソールに寄りがちになるということでレッスンスタディの本来的な意義が広く共通理解されることが肝要だと感じた。
本日は、ありがとうございました。 的場先生やみなさんのお話、もう少し、聞いてみたい事がたくさんありました。教育現場へOpen Al について、賛否両論ありますが授業研究の立場から今後の活用のあり方など、論じていただけるような時間があればまた来たいと思います。
本日は的場先生、草彌先生とアラニ先生の発言と提案を聞いて、授業研究に関する深い理解ができてよかったと思いました。授業研究の目的を考えると、やはり国によって目的も違います。その国に対して教育の目的は何ですかと考えなければならない。同時に、自分の枠組の中で、他人を見る必要もある。鏡を持って、自分のものを参照することは大事になります。国の背景によって、学力観とか、教師観とか、子ども観は必ず区別があると思います。 自分の枠組を持つのはもちろん重要ですが、国際的な視野を持って、よりよい実践を作り出すのも重要だと考えます。
世界各国とくに今回のインドネシアでもめざしている目標となる授業像は教員で共有されているのか。どんな授業がよい授業とされているのか。 各校でも？？ 名古屋だと、学校経営の努力点で、めざす子ども像、教育目標がどの学校にもあって、それをめざして

授業が展開されている。 　チームで授業づくりをする文化的（同僚性）な慣習はどれくらいあるのか。
◎日本の授業研究にも課題は多く、形に縛られる。やらされる。やりたくないなどの正直な教員の気持ちも受け取めていくことも大切である。 　一方で、授業を工夫すること、仲間の教員と語り合うこと、自己と向き合い厳しい道を選ぶことに、やりがいを感じている教員が少なくなかったのも事実であろう。だからこそ、日本の授業研究の文化が続いて来のだといえる。 　今後の日本の教師文化を維持・発展させる為には、進行しつつある見えない文化浸食に意識的に対応できるよう、可視化する必要がある。 　その為にも、実践者と研究者が手を取り合っていくことがますます重要となる。
的場先生、草子先生、アラニ先生という、いつもとは違う(?)アカデミックな雰囲気のシンポジウムになりました。 　「日本」の授業研究といっても、学校や地域、グループによってかなりの違いがあります。世界各国も同様なことが言えるのではないでしょうか。しかし、それでも共通する何かが見えるところが興味深いところです。 　授業研究と世界というと、はじめのうちは日本の授業研究を世界に紹介という面が強かったように思います。協同・学び合いがキーワードになっている現在、各国から学ぶという側面ももって考えてもよいのでは、と考えています。
毎回とても楽しみに勉強させて頂いしております。本当にありがとうございます。 　授業研究は、本当に毎日悪戦しています。子どもたちが主体的に学ぶ姿が一番大切であると思います。 　この主体的がとても難しく、30 年以上教員を続けていてもなかなか分かりません。 　研究会に参加しながら、自分なりの理論をもっていきたいと思っております。 　教師の働き方改革と言われていますが、もっと権利よりも義務を果たすべきだと思います。
「楽しんで学び合う」という言葉がとても印象に残りました。私は学ぶことが楽しいのですが、子ども達も先生方も、そうなるにはどうしたらいいのかな…ということをまた考えていこうと思います。「他者の鏡で自分を見る」という意識で授業研究をしていこうと思います。 　的場先生、20 年近くぶりに先生のお話がきけて、学生の頃に戻ったような初心を思い出すような気持ちになりました。「平和」を子ども達の成長の先に見ている。そうお話をきいて、的場先生の温かさはそこから来るものだったんだと目が開かれるような思いがしました。 　今日、来て本当によかったです。ありがとうございました。 　シニアフェロー就任、おめでとうございます!